



あなたの、いちばんであるために。2017.7～9月期 No.039

やましん

中小企業景況レポート

山梨信用金庫 総合企画部
〒400-0032 甲府市中央 1-12-36
TEL 055-225-0213
ホームページアドレス
<http://www.yamasin.jp/>

2017.10.18 発行

■ 調査要領 ■

1. 調査対象
当金庫営業エリア内の取引先中小企業 120社
2. 調査時期・期間
調査時期：2017年9月1日～7日
調査期間：今期実績 2017年7月～9月
来期見通し 2017年10月～12月
3. 調査方法
当金庫職員による訪問聞き取り調査
4. 分析方法
DIを中心に分析

■ 調査対象と回答状況 ■

業種	企業数	回答数	回答率
製造業	30	29	96.6%
卸売業	15	15	100%
小売業	15	15	100%
サービス業	29	27	93.1%
建設業	23	21	91.3%
不動産業	8	8	100%
合計	120	115	95.8%

※ 国中地区 69社、東部地区 30社、相模原市周辺地区 16社

※ DI (Diffusion Index) とは

各質問事項で「良い(増加)」とした企業割合－「悪い(減少)」とした企業割合の構成比との差(判断DI)による分析です。
例えば、回答が以下のような場合のDIの算出方法は、次のとおりです。

(例)「良い・やや良い」の回答が50%、「変わらず」の回答が30%、「悪い・やや悪い」の回答が20%の場合

DIは50「良い・やや良い」－20「悪い・やや悪い」＝＋30となります。DI値が高いほど景気が良いことを示しています。

業況判断DI

業種	前期	今期実績			来期見通し		
		良い	悪い	DI	良い	悪い	DI
総合	▲4.2	18.2	20.8	▲2.6	19.2	19.2	0.0
製造業	▲3.5	31.0	27.5	3.5	24.1	24.1	0.0
卸売業	▲26.7	7.1	35.7	▲28.6	14.2	21.4	▲7.2
小売業	▲26.7	0.0	26.6	▲26.6	13.3	13.3	0.0
サービス業	3.7	18.5	14.8	3.7	18.5	18.5	0.0
建設業	8.7	9.5	14.2	▲4.7	19.0	19.0	0.0
不動産業	12.5	50.0	0.0	50.0	25.0	12.5	12.5

業種別景気天気図

業種	前期	今期	見通し
総合			
製造業			
卸売業			
小売業			
サービス業			
建設業			
不動産業			

※本レポートは、標記時点における情報提供を目的としています。また、掲載資料は、正確性・完全性を保証するものではありません。

31以上	11~30	10~▲10	▲11~▲30	▲30未満

概況

<業況・売上・収益>

今期（7～9月）のD Iをみると、業況判断D I（「良い」－「悪い」）は、前期（4～6月）の▲4.2から▲2.6と1.6ポイント改善（前年同期比10.2ポイント改善）しました。売上D I（「増加」－「減少」）は、▲4.3から14.0と同18.3ポイント改善（前年同期比17.4ポイント改善）、収益D I（「増加」－「減少」）は▲0.9から1.7と同2.6ポイント改善（前年同期比13.6ポイント改善）となり、全てのD Iで改善となりました。

業況D Iについては、卸売業・建設業で悪化となりましたが、不動産業で12.5から50.0と同37.5ポイント改善したほか、製造業においても改善したことが要因となっています。

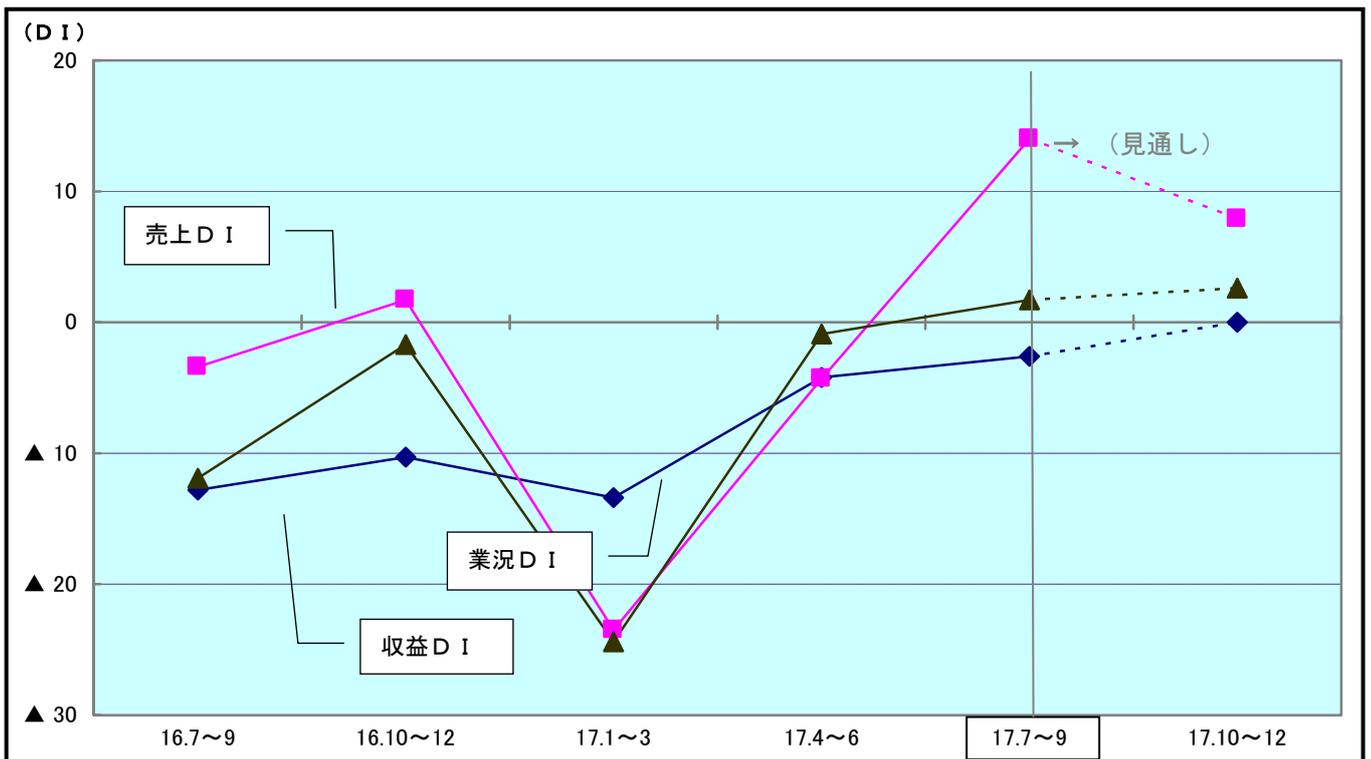
売上D Iについては、不動産業で25.0から62.5と同37.5ポイント改善したほか、その他全ての業種においても改善したことが要因となっています。

収益D Iについては、卸売業・小売業・建設業で悪化となりましたが、製造業で0.0から13.8と同13.8ポイント改善したほか、サービス業・不動産業においても改善したことが要因となっています。

全業種総合の来期見通し（10～12月）をみると、業況判断D Iが0.0と今期実績比2.6ポイント改善と見込まれています。また、売上D Iは7.9と同6.1ポイントの悪化、収益D Iは2.6と同0.9ポイントの改善が見込まれています。業種別の業況判断D Iは、卸売業・小売業・建設業で改善が見込まれる一方、製造業・サービス業・不動産業で悪化が見込まれています。

■ 業況・売上・収益D Iの時系列推移

	16.7～9	16.10～12	17.1～3	17.4～6	17.7～9	17.10～12 見通し
業況 D I	▲12.8	▲10.3	▲13.4	▲4.2	▲2.6	0.0
売上 D I	▲3.4	1.7	▲23.5	▲4.3	14.0	7.9
収益 D I	▲11.9	▲1.7	▲24.4	▲0.9	1.7	2.6



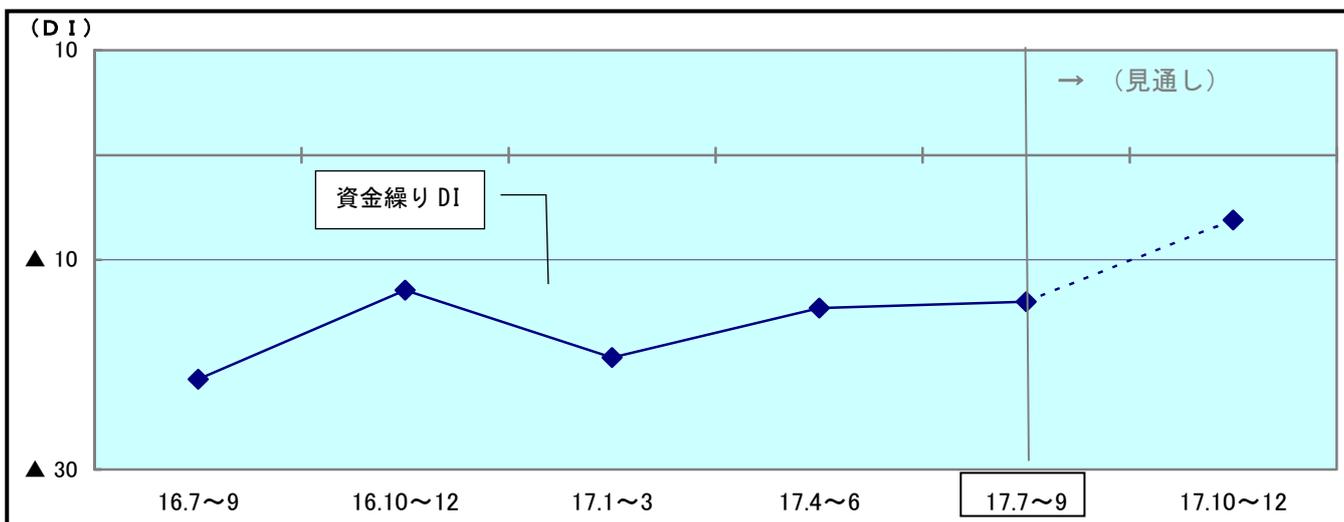
<資金繰り>

資金繰りDI（「楽」－「苦しい」）は▲14.0と、前期比0.6ポイントの改善となりました（前年同期比7.4ポイント改善）。

また、来期の資金繰りDIは▲6.2と、今期実績比7.8ポイントの改善が見込まれています。

■ 資金繰りDIの時系列推移

	16.7~9	16.10~12	17.1~3	17.4~6	17.7~9	17.10~12 見通し
資金繰りDI	▲21.4	▲12.9	▲19.3	▲14.6	▲14.0	▲6.2



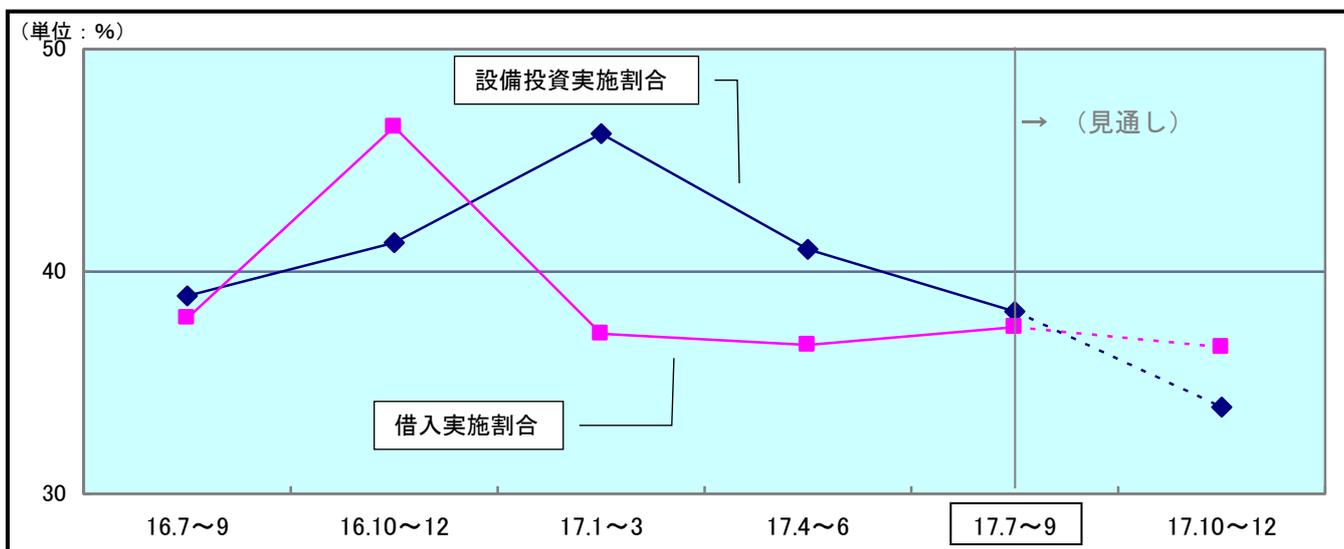
<設備投資・借入動向>

不動産業を除いた設備投資実施企業割合は38.2%と、前期比2.8ポイント低下しています（前年同期比0.6ポイント低下）。また、来期の設備投資実施予定企業割合は33.9%と今期実績比4.3ポイントの低下が見込まれています。

全業種総合の借入実施企業割合は37.5%と、前期比0.8ポイント上昇しています（前年同期比0.4ポイント低下）。また、来期の借入実施予定企業割合は36.6%と、今期実績比0.9ポイントの低下が見込まれています。

■ 設備投資・借入実施動向の時系列推移

	16.7~9	16.10~12	17.1~3	17.4~6	17.7~9	17.10~12 見通し
設備投資実施割合	38.8%	41.3%	46.2%	41.0%	38.2%	33.9%
借入実施割合	37.9%	46.5%	37.2%	36.7%	37.5%	36.6%



【製造業】

今期の業況判断D Iは3.5となり、前期（4～6月）比7.0ポイント改善となりました（前年同期比3.5ポイント改善）。売上D Iは同24.2ポイント改善の17.3、収益D Iは同13.8ポイント改善の13.8、資金繰りD Iは、同3.4ポイント改善の▲13.8と全てのD Iで改善となりました。

来期（10～12月）の見通しについては、業況判断D Iが今期実績比3.5ポイント悪化の0.0、売上D Iが同13.9ポイント悪化の3.4、収益D Iは同3.5ポイント改善の17.3、資金繰りD Iは13.8ポイント改善の0.0と見込まれています。

■経営上の問題点（）内は前回順位

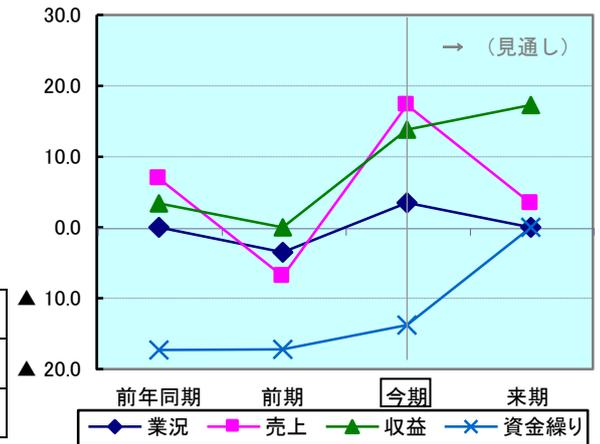
1	売上の停滞・減少(1)	34.5%
	人手不足(2)	
2	人件費の増加(6)	24.1%

■当面の重点経営施策

1	販路の拡大(1)	51.7%
2	人材の確保(3)	44.8%
3	経費の削減(2)	37.9%

■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	0.0	▲3.5	3.5	0.0
売上	6.9	▲6.9	17.3	3.4
収益	3.4	0.0	13.8	17.3
資金繰り	▲17.3	▲17.2	▲13.8	0.0



【卸売業】

今期の業況判断D Iは▲28.6となり、前期（4～6月）比1.9ポイント悪化となりました。（前年同期比14.3ポイント悪化）。売上D Iは同6.7ポイント改善の0.0、収益D Iは同7.7ポイント悪化の▲14.3、資金繰りD Iは、同1.9ポイント悪化の▲28.5となりました。

来期（10～12月）の見通しについては、業況判断D Iが、今期実績比21.4ポイント改善の▲7.2、売上D Iが同35.8ポイント改善の35.8、収益D Iが同42.9ポイント改善の28.6、資金繰りD Iが同7.1ポイント改善の▲21.4とすべてのD Iで改善が見込まれています。

■経営上の問題点（）内は前回順位

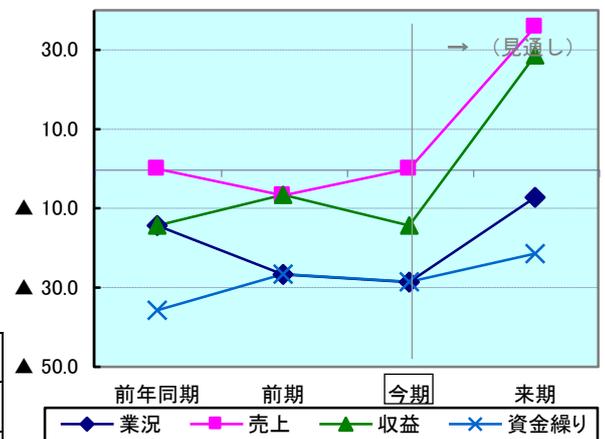
1	同業者間の競争激化(2)	50.0%
2	売上の停滞・減少(1)	35.7%
	取引先の減少(2)	
	利幅の縮小(4)	

■当面の重点経営施策

1	販路の拡大(1)	78.6%
2	経費の削減(2)	42.9%
3	情報力の強化(2)	28.6%

■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲14.3	▲26.7	▲28.6	▲7.2
売上	0.0	▲6.7	0.0	35.8
収益	▲14.3	▲6.6	▲14.3	28.6
資金繰り	▲35.7	▲26.6	▲28.5	▲21.4



【小売業】

今期の業況判断D Iは▲26.6となり、前期（4～6月）比0.1ポイントの改善となりました（前年同期比33.4ポイント改善）。売上D Iは同20.0ポイント改善の13.3、収益D Iは同6.7ポイント悪化の▲13.3となりました。資金繰りD Iは同横ばいの▲26.6となりました。

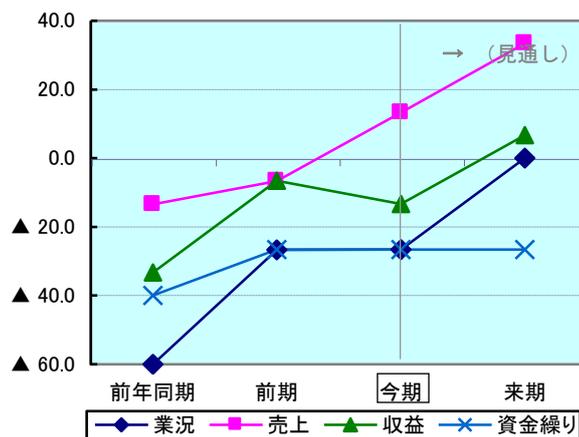
来期（10～12月）の見通しについては、業況判断D Iが今期実績比26.6ポイント改善の0.0、売上D Iが同20.1ポイント改善の33.4、収益D Iが同20.0ポイント改善の6.7となりました。資金繰りD Iは同横ばいの▲26.6と見込まれております。

■経営上の問題点（）は前回順位 ■当面の重点経営施策

1	売上の停滞・減少(1)	60.0%	1	経費の節減(1)	46.7%
2	同業者間の競争激化(3)	33.3%	2	人材の確保(3)	40.0%
3	利幅の縮小(2)	26.7%	3	品揃えの改善(2)	33.3%
	仕入先からの値上げ要請(4)				

■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲60.0	▲26.7	▲26.6	0.0
売上	▲13.4	▲6.7	13.3	33.4
収益	▲33.3	▲6.6	▲13.3	6.7
資金繰り	▲40.0	▲26.6	▲26.6	▲26.6



【サービス業】

今期の業況判断D Iは3.7となり、前期（4～6月）比横ばいとなりました。（前年同期比3.7ポイント改善）。売上D Iは同14.8ポイント改善の18.5、収益D Iは同7.4ポイント改善の11.1、資金繰りD Iは、同横ばいの▲3.7となりました。

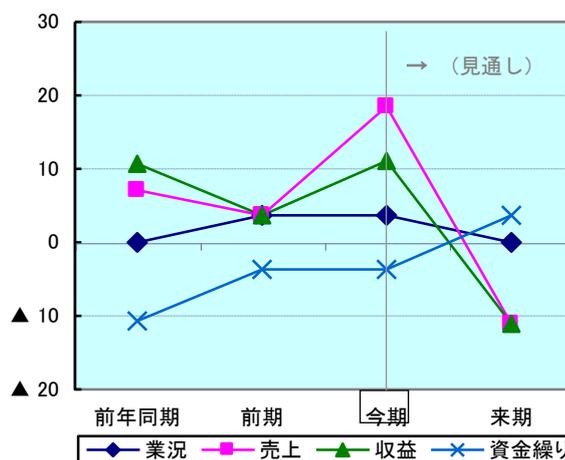
来期（10～12月）の見通しについては、業況判断D Iが今期実績比3.7ポイント悪化の0.0、売上D Iが同29.6ポイント悪化の▲11.1、収益D Iが同22.2ポイント悪化の▲11.1、資金繰りD Iが7.4ポイント改善の3.7と見込まれています。

■経営上の問題点（）は前回順位 ■当面の重点経営施策

1	人手不足(1)	44.4%	1	人材の確保(1)	40.7%
2	売上の停滞・減少(2)	37.0%	2	販路の拡大(3)	37.0%
3	大手企業との競争の激化(5)	22.2%	3	教育訓練を強化(4)	29.6%

■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	0.0	3.7	3.7	0.0
売上	7.1	3.7	18.5	▲11.1
収益	10.7	3.7	11.1	▲11.1
資金繰り	▲10.7	▲3.7	▲3.7	3.7



【建設業】

今期の業況判断D Iは▲4.7 となり、前期（4～6月）比で13.4ポイント悪化しております（前年同期比12.7ポイント改善）。売上D Iは同12.6ポイント改善の▲4.8、収益D Iは同19.4ポイント悪化の▲23.8、資金繰りD Iは、同5.6ポイント悪化の▲14.3となっております。

来期（10～12月）の見通しについては、業況判断D Iが今期実績比4.7ポイント改善の0.0、売上D Iが同4.8ポイント改善の0.0、収益D Iが同4.8ポイント改善の▲19.0、資金繰りD Iが同14.3ポイント改善の0.0と見込まれています。

■経営上の問題点（）は前回順位 ■当面の重点経営施策

1	同業者間の競争の激化(1)	42.9%	1	情報力の強化(1)	52.4%
2	人手不足(4)	38.1%		技術力の強化(3)	
3	利幅の縮小(2)	33.3%	2	販路の拡大(2)	42.9%
	売上の停滞・減少(3)				

【不動産業】

今期の業況判断D Iは50.0となり、前期（4～6月）比37.5ポイント改善となりました。（前年同期比50.0ポイント改善）。売上D Iは同37.5ポイント改善の62.5、収益D Iが同37.5ポイント改善の50.0となりました。資金繰りD Iは同12.5ポイント改善の0.0と全てのD Iで改善となりました。

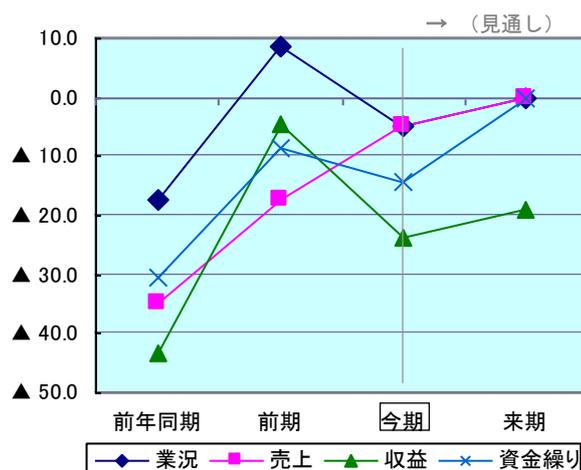
来期（10～12月）の見通しについては、業況判断D Iが今期実績比37.5ポイント悪化の12.5、売上D Iが同50.0ポイント悪化の12.5、収益D Iが同50.0ポイント悪化の0.0、資金繰りD Iが同12.5ポイント悪化の▲12.5と見込まれています。

■経営上の問題点（）は前回順位 ■当面の重点経営施策

1	商品物件の不足(1)	75.0%	1	情報力強化(1)	62.5%
2	同業者間の競争の激化(3)	37.5%			
3	利幅の縮小(2)	25.0%	2	宣伝・広告の強化(4)	50.0%
	人件費以外の経費の増加(4)				
	売上の停滞・減少(5)				
	大手企業との競争の激化(5)				

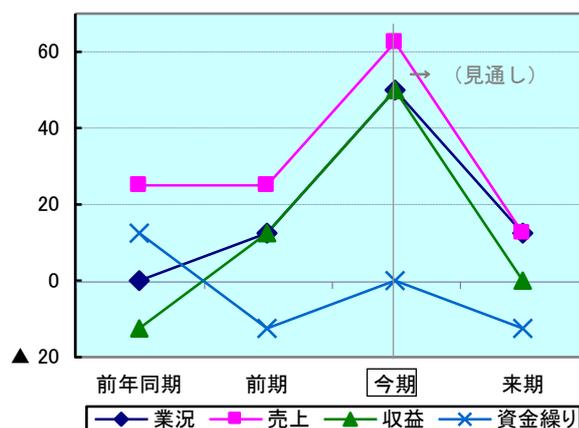
■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲17.4	8.7	▲4.7	0.0
売上	▲34.8	▲17.4	▲4.8	0.0
収益	▲43.4	▲4.4	▲23.8	▲19.0
資金繰り	▲30.4	▲8.7	▲14.3	0.0



■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	0.0	12.5	50.0	12.5
売上	25.0	25.0	62.5	12.5
収益	▲12.5	12.5	50.0	0.0
資金繰り	12.5	▲12.5	0.0	▲12.5



<地区別D I の状況>

	国 中 地 区				郡 内 地 区				相 模 原 地 区			
	前年同期	前期	今期	来期	前年同期	前期	今期	来期	前年同期	前期	今期	来期
業況D I	▲8.5	▲9.8	▲13.2	▲8.8	▲16.6	13.3	10.0	6.7	▲11.7	▲6.2	18.8	25.0
売上D I	▲1.4	▲5.6	5.9	7.4	0.0	3.3	20.0	3.3	▲17.6	0.0	25.0	12.5
収益D I	▲7.1	▲1.4	▲1.5	7.4	▲6.6	6.6	6.7	▲3.3	▲35.2	0.0	6.3	▲25.0

【当期】

国中地区においては、売上D I が5.9 とプラスに転じたものの、業況判断D I 及び収益D I は依然マイナス水準にあって悪化し、景況感には厳しさが垣間見えます。

郡内地区においては、業況判断、売上及び収益いずれのD I もプラスにあって、売上D I は前期（4～6月）に比べて16.7ポイント改善する等、堅調な推移となりました。

相模原地区においては、いずれのD I も大幅に改善し、業況判断D I もプラスに転じており、景況感の改善が見られます。

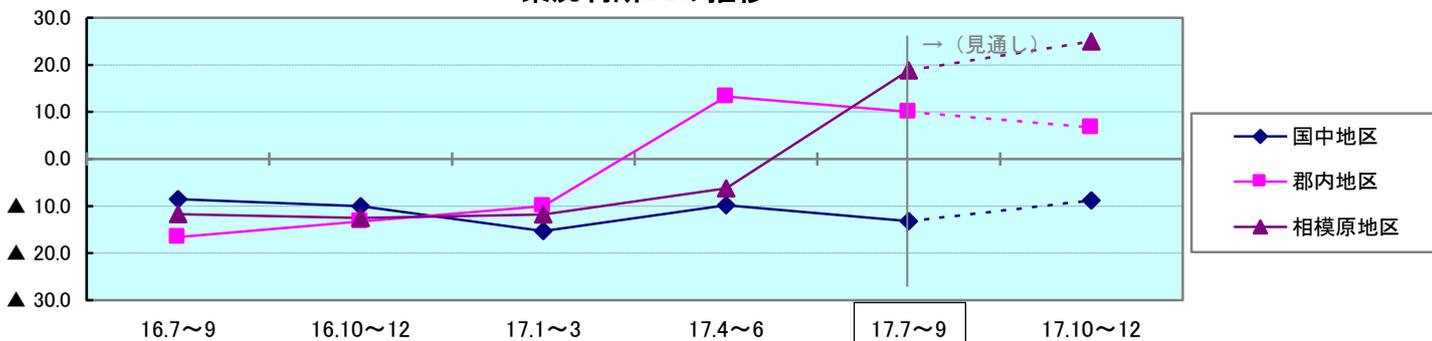
【来期の見通し】

国中地区においては、業況判断D I が依然マイナス水準に止まるなかでも改善され、また、売上及び収益D I も改善が見込まれています。

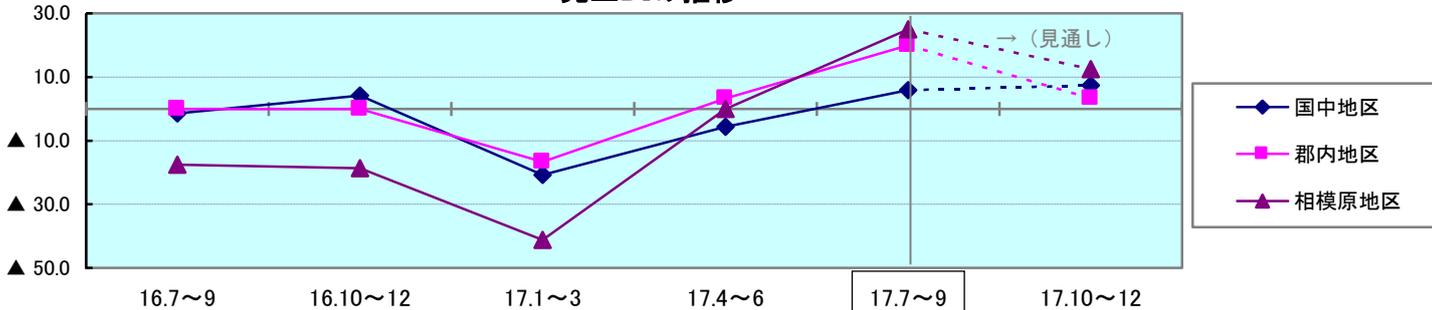
郡内地区においては、売上D I が16.7ポイント悪化する他、収益D I はマイナスとなる等厳しい見通しとなっております。

相模原地区においては、売上及び収益D I は悪化する見通しとなりましたが、業況判断D I は引き続き改善が見込まれています。

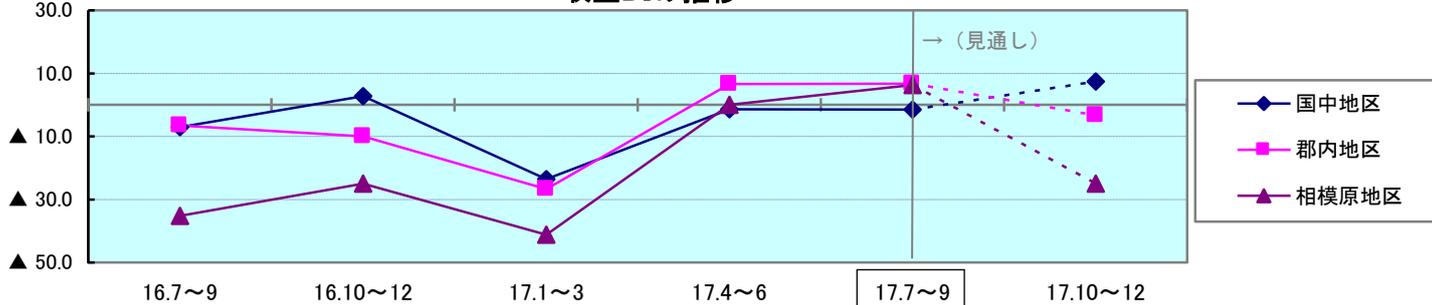
業況判断DIの推移



売上DIの推移



収益DIの推移



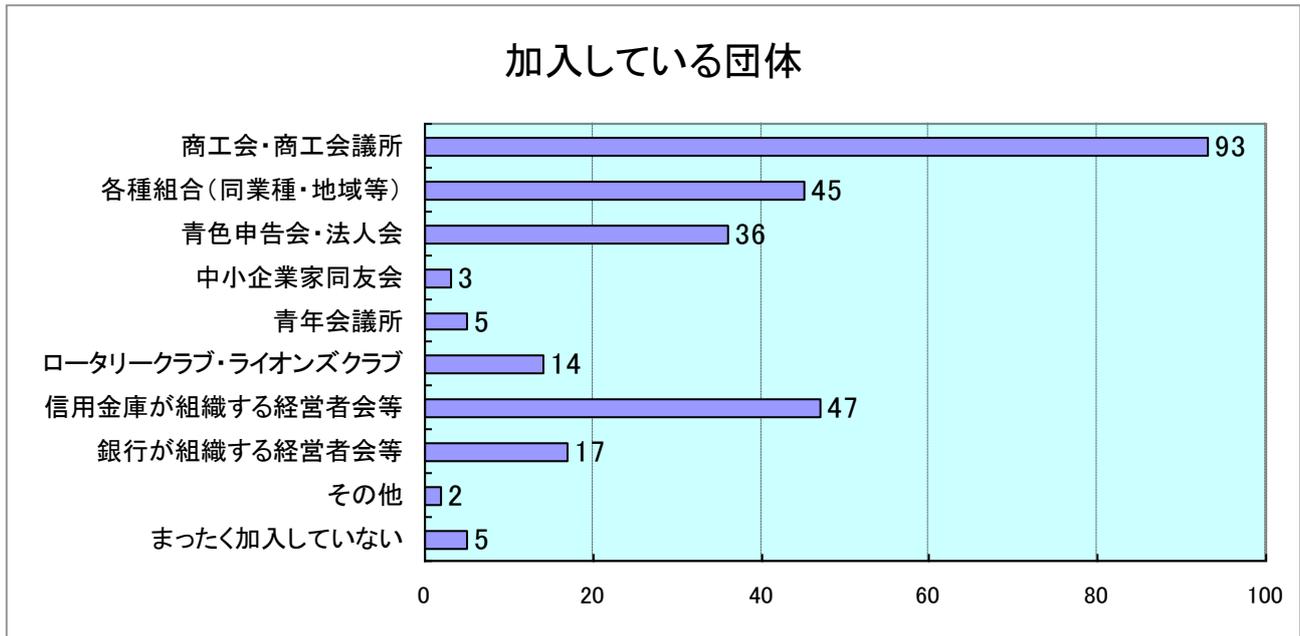
特別調査

「中小企業経営と地域との関わりについて」

◆ 貴社では、団体等に参加していますか。（複数回答）

（回答企業数：115 社）

（単位：社）



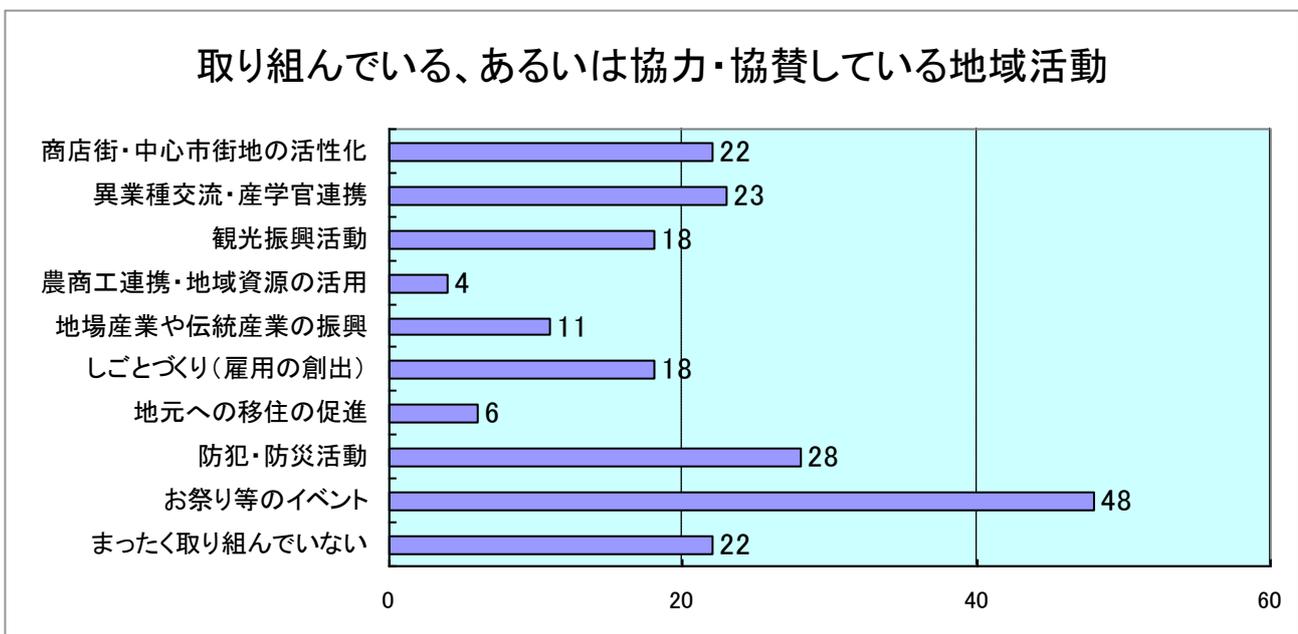
地域経済との関わりの中で、加入している団体については、「商工会・商工会議所」（93 社、80.9%）と回答した企業が最も多く、次いで「信用金庫が組織する経営者会等」（47 社、40.9%）「各種組合（同業種・地域等）」（45 社、39.1%）と続いています。

また、「まったく加入していない」と回答した企業は 5 社、4.3%となり、多くの企業が何らかの団体に参加している割合が高いことが窺える結果となりました。

◆ 貴社が地域経済との関わりの中で取り組んでいる、あるいは協力・協賛している地域での活動はありますか。（複数回答）

（回答企業数：115 社）

（単位：社）

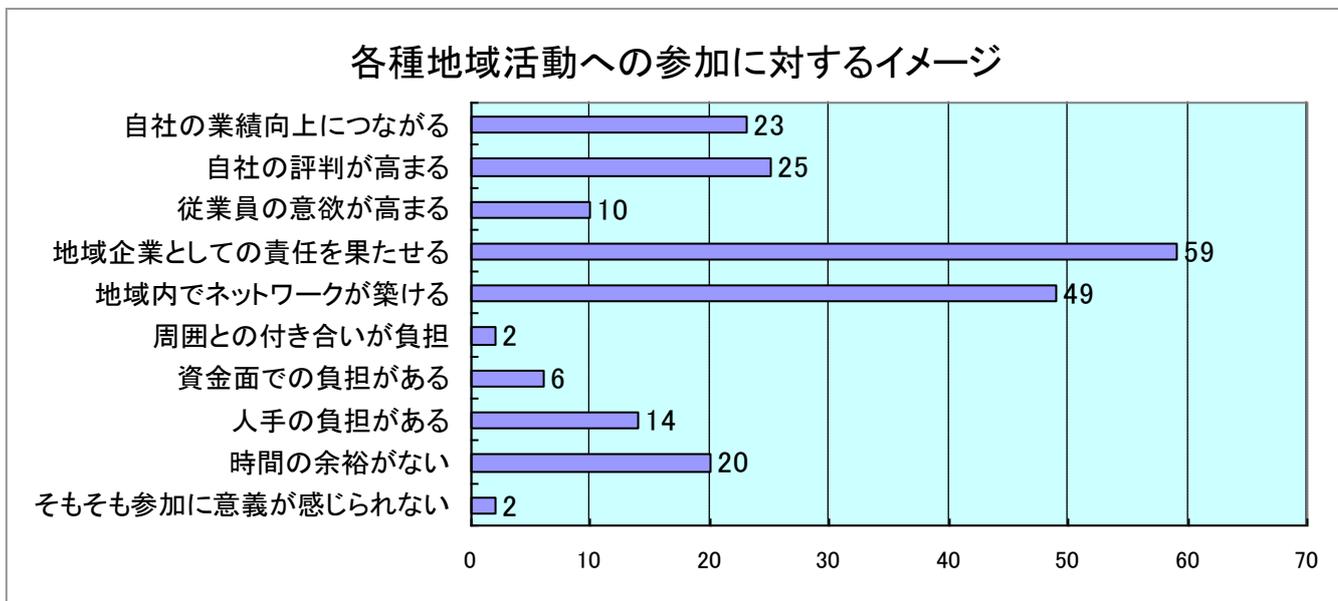


地域経済との関わりのなかで取組んでいる、あるいは協力・協賛している地域での活動について、「お祭り等のイベント」(48社、41.7%)と回答した企業が最も多く、次いで「防犯・防災活動」(28社、24.3%)「異業種交流・産学官連携」(23社、20.0%)と続いています。

業種別に見ると、サービス業では「観光振興活動」との回答が最も多い結果となりました。

◆貴社では、各種地域活動への参加に対して、どのようなイメージをお持ちですか。(複数回答)
(回答企業数：115社)

(単位：社)

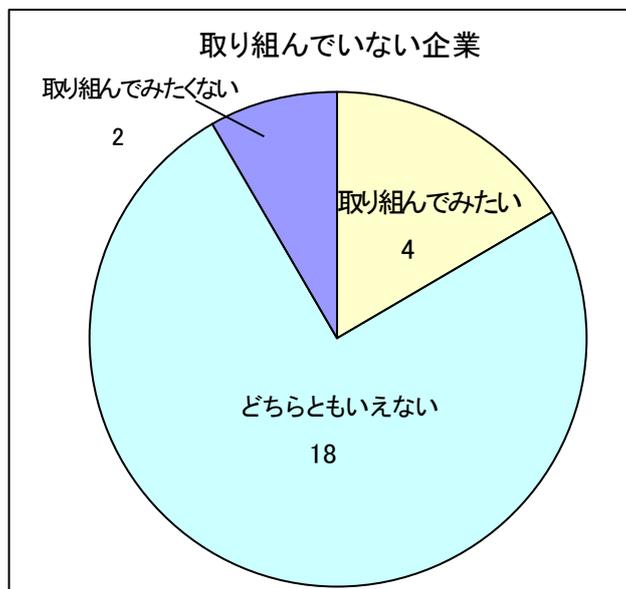
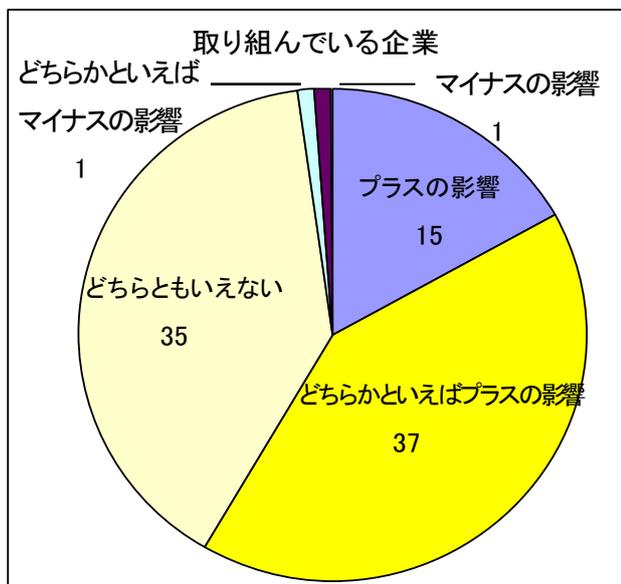


各種地域活動への参加に対して、どのようなイメージを持っているかについて、「地域企業としての責任を果たせる」(59社、51.3%)と回答した企業が最も多く、次いで「地域内でネットワークが築ける」(49社、42.6%)「自社の評判が高まる」(25社、21.7%)と続いています。

また「地域企業としての責任が果たせる」(51.3%)「地域内でネットワークが築ける」(42.6%)と前向きなイメージの回答が多いですが、一方では「時間の余裕がない」(17.4%)「人手の負担がある」(12.2%)と後ろ向きなイメージの回答も一定数見受けられます。

◆各種地域活動について、何らかの活動に取り組んでいる場合は、その活動が自社の経営あるいは事業に及ぼしている影響がありますか。また、活動に取り組んでいない場合は、今後の活動への取り組みの意向をお答えください。(回答企業数：113社)

(単位：社)

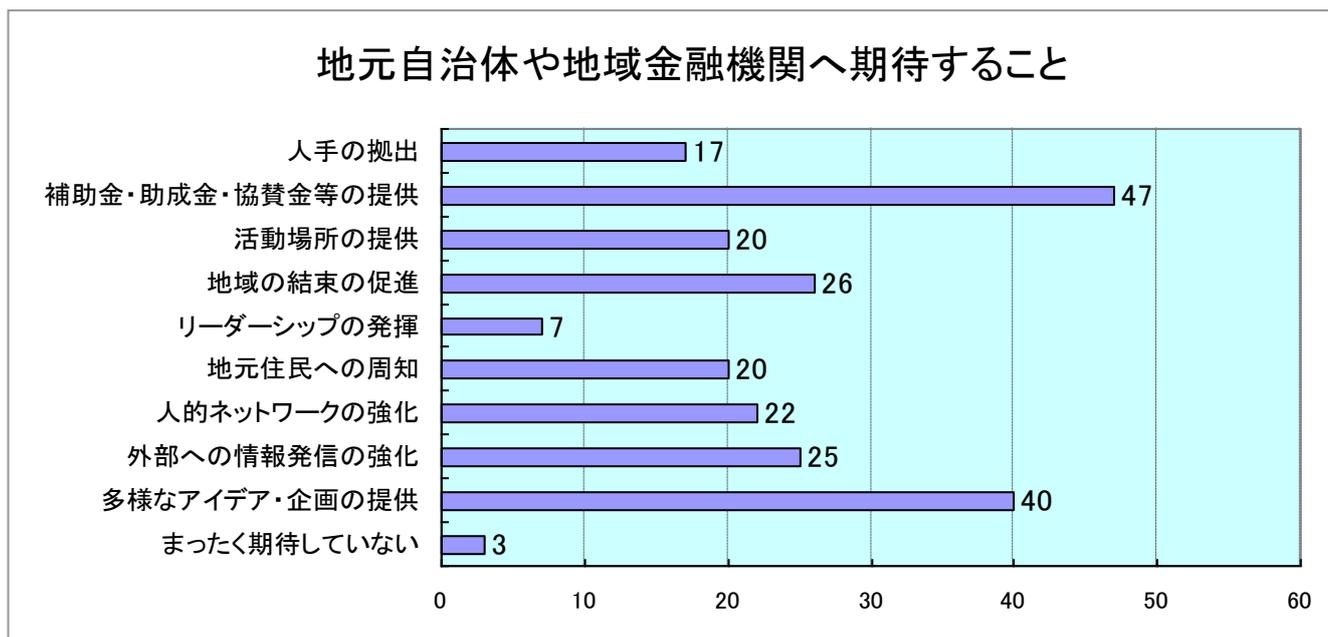


各種活動が自社に及ぼす影響について、取り組んでいる企業の多くがプラス影響（「プラスの影響」（15社、16.9%）「どちらかといえばプラスの影響」（37社41.6%）と回答しており、一方でマイナス影響（「マイナスの影響」（1社、1.1%）「どちらかといえばマイナスの影響」（1社、1.1%）と回答した企業はほとんどみられませんでした。

また、取り組んでいない企業については「どちらともいえない」（18社、75.0%）との回答が最も多い結果となりました。

- ◆今後、地域での各種活動がさらに活発化していくために、地元自治体や地域金融機関に期待することはありますか。（複数回答）
（回答企業数：115社）

（単位：社）



各種活動が活発化していくために、地元自治体や地域金融機関に期待することについて、「補助金・助成金・協賛金等の提供」（47社、40.9%）と回答した企業が最も多く、次いで「多様なアイデア・企画の提供」（40社、34.8%）、「地域の結束の促進」（26社、22.6%）と続いています。また、「まったく期待していない」との回答は3社、2.6%にとどまり、ほとんどの企業が地元自治体や地域金融機関に高い期待をよせていることが窺える結果となりました。

調査員のコメント

製造業

○経営上の問題点として、作業の合理化不足があり、今後は教育訓練の強化に重点を置き、問題の解決に取り組んでいる。(ガラス製造業)

卸売業

○利幅の縮小が経営課題であることから、適正価格を確保し、粗利を意識した営業に取り組む。また、品揃えを充実させ、他社との差別化を図っていくことが重要である。(水産物卸業)

小売業

○近年、町内の人口が減少していることや大型店の台頭により、売上は伸び悩んでいる。地域に関わることで顧客を獲得しているので、今後も地域活動には参加する方針としている。
(医薬品・雑貨販売業)

サービス業

○夏季は日本人客、学生のゼミ合宿で賑わっているが、インバウンド減少の影響により売上は減少傾向である。アイデアや企画も検討しながら、秋季、冬季にかけて集客をしたい。(宿泊業)

建設業

○業界全体で材料仕入価格の増加傾向にあり、収益が減少している。経費削減を会社全体の従業員に意識させ、技術力向上、人材育成に力を入れていくことで、長期的に会社の業況を向上させていく。
(空調機器等設置業)

不動産業

○相模原市内橋本駅周辺物件がリニア新幹線駅建設の影響から、地価が高騰し、仕入れに苦慮している。(不動産販売業)

編集後記

このたびの中小企業景気動向調査においては、お忙しいなかご協力賜りまして誠にありがとうございました。

今回の調査では、業況判断DIが前期比1.6ポイント改善の▲2.6となり、依然としてマイナスの値ではあるものの、過去1年間で最も高い数値となりました。

来期においてはさらに2.6ポイント改善し0.0が見込まれ、明るい兆しが見えてきております。

また、今回の特別調査では「中小企業経営と地域との関わりについて」と題して調査をいたしました。多くの企業は何らかの地域の団体に加入しており、また、地域活動のなかで自社に及ぼしている影響としては、多くの企業でプラス影響と考えていることが窺える結果となりました。

当金庫におきましても、今後ともお祭り等の地域活動に参加し、地域の活発化に向けた取組みに積極的に取り組んでまいります。

その他、地域の事業者が抱える様々な課題に対しましても積極的にご支援してまいりますので、お気軽に当金庫営業店または担当者までご相談ください。